



わかる! 白内障 早めに治療法を知っておくことが目の健康を維持する秘訣

進化した白内障治療

医療法人聖佑会 理事長 医学博士

大島 佑介

俳優

山下 真司



おおしま・ゆうすけ/1965年大阪府生まれ。大阪大学医学部卒業。京都大学再生医科学研究所(国内留学)、大阪大学大学院医学系研究科眼科学教室講師、西葛西井上眼科病院副院長を歴任し、2014年高槻市に「おおしま眼科クリニック」を開設。15年医療法人聖佑会グループ理事長に。「おおしま眼科富田町クリニック」「おおしま眼科池本クリニック」の2院をあわせて3院を統括。医学博士、日本眼科学会認定眼科専門医、米国網膜専門医学会日本連絡代表、中国南開大学医学院客員教授、京都府立医科大学眼科学教室客員講師。白内障手術および網膜硝子体(しょうしうたい)手術のエキスパートとして知られる。

やました・しんじ/1951年山口県生まれ。ドラマ「太陽にほえろ!」に出演し、79年からスニーカー刑事役で注目を集める。84年、主役の熱血教師を演じた「スクール・ウォーズ」が大ヒット。その後も数々のドラマや映画、舞台に出演。94年から4年間、「くいしん坊!万才」の9代目リポーターを務める。最近ではバラエティー番組でも活躍。

図2 眼内レンズの種類

見る対象との距離によっては眼鏡が必要

老眼になる前の見え方に近い

単焦点レンズ

ある1点の距離に焦点を合わせています

〈選択できる焦点距離〉
●遠距離 ●中距離 ●近距離

費用:保険適用

2焦点レンズ

ある2点の距離に焦点を合わせています

〈選択できる焦点距離〉
●遠距離-近距離 ●遠距離-中距離

費用:選定療養適用

3焦点自然視覚レンズ

ある3点の距離に焦点を合わせています

〈選択できる焦点距離〉
●遠距離-中距離-近距離

費用:選定療養適用

焦点が合っているところでも場合によっては眼鏡が必要なことがあります

多焦点眼内レンズを使用する白内障手術は、令和2年4月1日より、厚生労働省が定める選定療養(※)の対象となりました。医療機関によっては、国内で承認された多焦点眼内レンズを使用する白内障手術に係る費用の自己負担を軽減できる場合があります。
※選定療養の場合、多焦点レンズに係る費用は自己負担ですが、それ以外の通常の診療については健康保険から給付を受けることが可能です。詳細は、最寄りの医療機関へお問い合わせください。

山下 私は今年69歳なのですが、50代半ば頃から、ものがダブって見えたり、かすんで見えたりするようになりまして。もともと視力は良かったのですが、
大島 白内障の初期症状が出始めているかもしれませんね。目の中に水晶体というカメラのレンズにあたる部分があります。若い頃は透明で、これが厚くなったり薄くなったりして焦点距離を合わせているのですが、40歳を過ぎると水晶体が徐々に硬くなり、焦点を合わせる(調節)力が弱くなって近くが見えづらくなります。これが老眼の始まりです。さらに、水晶体のたんぱく質が変性して少しずつ濁りも出てきます。それでもものがダブって見えたり、かすんだりするわけです。
山下 それらが白内障の初期症状。となると私も可能性があるわけですね。
大島 はい。ただ白内障はあくまでも加齢現象の一つであり、程度の差こそありますが、年齢を重ねれば誰でも発症しうる疾患です。実際に、早い方では40代後半には始まり、年代が上がるにつれて割合が増し、60代では約6割の方、70代以上ではほとんどの方に何らかの白内障があります。

白内障手術は安全性が高く最近では日帰り手術が一般的

山下 実は昨年、妻が白内障の手術を受けています。
大島 そうでしたか。今の白内障手術は進歩していきまして、手術時間も通常では約10分程度と大変短く日帰りで済みます。
山下 ただ、目の手術には不安も。
大島 ごく初期の白内障なら点眼薬で進行を多少遅らせる選択もありますが、根本的な解決にはなりません。日常生活で見え方に何かしら支障を感じているのであれば、奥様の

白内障は加齢と共に誰でも発症しうる疾患

「視覚」は人間の五感の中でも重要な働きをしています。「人生100年時代」と言われる今、年齢を重ねても活力ある後半生を送るためには、いつまでも健やかな視覚を保てるよう、目の加齢対策が大切です。加齢によって引き起こされる代表的な目の病気が白内障。70歳以上のほとんどの方に症状が見られるそうです。白内障という疾患とその治療法における正しい知識と理解について、俳優の山下真司さんが年間約2500件の白内障手術を行う手術のエキスパートの大島佑介先生に伺いました。

山下 ように手術をするのが得策です。
山下 では具体的に、どんな手術なのか詳しく教えてくださいませんか？
大島 水晶体は水晶体嚢と呼ばれる透明な袋に包まれているのですが、その袋の前面を丸く切りぬいて、そこから濁った水晶体を超音波で碎き吸引して取り除き、水晶体嚢を残します。眼内レンズは直径約6mm、全長約13mmですが、現在使用されているレンズの多くは、アクリル素材でごく柔らかいので、丸めると約2・5mm程度。これを小さな創口から眼内に入れ、水晶体嚢の中に固定して終わりです(図1)。
山下 痛みはないのですか？
大島 目薬による局所麻酔でほとんど痛みを感じることがありません。傷口もわずか数mmと小さいので縫合する必要もありません。ほとんどの患者さんが、翌日からほぼ普段と同じ生活をされています。

眼内レンズは単焦点と多焦点。ライフスタイルで選択

大島 ちなみに奥様はどのタイプの眼内レンズにされたかご存じですか？
山下 3焦点レンズと言っていました。
大島 日本でも普及し始めている最新のレンズですね。実は眼内レンズには単焦点と多焦点があります。単焦点は一つの距離にピントが合うように設計されています。多焦点には二つの焦点距離に合わせる2焦点、三つの焦点距離が同時にクリアに見えるように設計された3焦点があります。3焦点レンズは、一番自然な見え方に近いことから3焦点自然視覚レンズと呼ばれています。老眼になる前の見え方に近いですね(図2)。
山下 3種類もあるのですか。そこから何を

気になる目の症状があれば我慢せず眼科を受診を

山下 白内障手術は高齢でも体力的に耐えられるものなんですか？
大島 僕が手術させてもらった最高齢が101歳。まさに人生100年時代！先日も91歳の男性を手術させて頂きました。術後、最初に目を開けて84歳の奥様を見るなり、「あんな、きれいなあ」と。両眼とも術前は0・1にも満たない視力が今は0・7ぐらいまで回復し、見えるようになったことでご本人も表情が明るくなって、本当に眼科医冥利に尽きます。
山下 まさに目に奇跡が起きたわけですね。素敵なお話です。
大島 その男性はかなり進行した白内障でしたが、本当はそこまで我慢しない方がいいんです。白内障が進行すると水晶体が膨らみ、それを支える組織も弱くなってしまい、眼圧上昇などの他の合併症のリスクが高まってしまいます。他の病気同様、白内障も早期発見と早期治療が大切です。
山下 妻も手術後、表情が明るくなって楽し

基準に選べばいいのでしょうか？
大島 基本的にはその方のライフスタイルに合わせたレンズ選びをしてもらいたいですね。単焦点はストライクゾーンだとコントロールがよく、見え方も鮮明なので、例えば服飾デザイナーのような微妙な色の違いまで把握したいお仕事の方向けです。2焦点レンズは遠距離と手元などの近距離、遠距離とパソコンなどの中距離だけが見えればよい人向け。テレビ、パソコン、スマホを見る、新聞を読む、車を運転するなど生活全般において眼鏡なしで自然に見えるようにしたければ、3焦点自然視覚レンズがおすすです。
山下 僕は3焦点が良さそうです。
大島 そうですね。ただ、3焦点自然視覚レンズにもデメリットがあって、各焦点のクリアさが単焦点ほどではないので、夜間など条件によっては多少見えづらく感じることもあります。いずれにしても、手術前には多焦点レンズに精通した専門医師のカウンセリングで正確な情報を得て、患者さんからは自分のライフスタイルをしっかり医師に伝えるなど、コミュニケーションを十分にとった上で適切なレンズを選ぶことが大切です。

図1 超音波白内障手術の方法

- 1 麻酔をかける**
ほとんどの白内障手術は点眼麻酔。麻酔によって手術中はほとんど痛みを感じません
- 2 眼内レンズを入れる穴を作る**
水晶体を包む袋(水晶体嚢)の前面に丸く切れ目を入れます
- 3 濁った水晶体を取り除く**
水晶体嚢の切れ目から器具を入れ、超音波で水晶体を碎きながら吸引して取り除きます
- 4 眼内レンズを入れる**
空になった水晶体嚢の中に眼内レンズを入れ、固定します

そうです。私も早めに検査を受け、白内障と診断されたら手術を受けるようにしたいなと思います。
大島 もちろん、日常生活に問題がなければ慌てて手術しなくても大丈夫です。でも、ものが見づらいと自覚しては支障を感じているのであれば、我慢する必要はないと思います。よくあるのは怖いから手術をしたくないという方です。苦痛なく短時間で治るものだけに本当にもつたいないと思います。
山下 どうしても恐怖心があるんです。ただ、目が見えるというのは一番良かったこと。自然の美しさを見て幸せを感じたり、奥さんの顔を見てきれいだと言えたりするって素敵です。そういうお金には換えられない幸せを得るためにも、一歩踏み出す勇気が必要ですね。
大島 その通りです。見える喜びはプライスレスですね！人生100年時代の今、残りの人生をより楽しく過ごすためにも、今一度、目の健康に気を配って頂けたらと思います。
山下 こうやって専門医から話を伺い、正しい情報を得ることで不安を解消できるのだと実感しました。貴重なお話をありがとうございました。

